

地域コミュニティって なんじゃらほい？



筑紫野市では、共助社会づくりに向けて、地域コミュニティによるまちづくりを推進しています。

今回は、山口コミュニティ運営協議会の取り組みについて紹介します。

認知症サポーターとは？

認知症に対する正しい知識と理解を持って、地域や職場で認知症の人や家族を温かく見守り、手助けをする応援者のことです。

特別な職業や資格ではなく、認知症サポーター養成講座を修了し、日常生活の中で認知症への理解と支援の心を持って自分なりにできることから実践します。

地域では、住み慣れた地で安心して暮らせるまちづくりを目指してさまざまな福祉活動が活発に行われています。

今回は、山口コミュニティ運営協議会で実施された認知症サポーター養成講座および認知症「笑顔で声かけ」訓練イン山口について紹介します。

いつまでも安心して暮らせるまちづくり

学び

認知症サポーター養成講座
(各公民館)

実践

認知症「笑顔で声かけ」訓練
(校区全域)

実践訓練を行うことで学びを深めます

4回目となる今回は、「挑戦」として、新しい「であい・ふれあい・ささえ愛」に取り組みました。

認知症支援訓練に向け、8月から10月にかけて認知症サポーター養成講座を各公民館で開催しました。

訓練に参加する人は、基礎知識や声のかけ方などを学び訓練に臨みます。

認知症「笑顔で声かけ」訓練イン山口 10月27日(日)



山口コミュニティ運営協議会役員、民生委員・児童委員、福祉委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、社会福祉施設職員、養成講座を受けたサポーターなど171人が1チームとなり、声かけ訓練を行いました。認知症に対する意識が一層高まり、初参加の皆さんとともに理解を深めることができました。

心温まる「路上訓練」に加え、今年は、イオンモール筑紫野にご協力いただき、1階食品売り場での「館内訓練」も実施しました。



買い物客や従業員の皆さんも声かけしていただきました。
「1人の100歩より100人の1歩」そして「継続は力なり」を実感しました。